

図書紹介・New publications

メダカの生物学. 江上信雄・山上健次郎・嶋 昭紘  
編. 1990. 東京大学出版会, 東京. 315 pp. 6,180 円  
(税込).

本書は 26 人の著者によるメダカの総説集(19 篇)である。内容は I. はじめに, II. 生殖と発生, III. 系統と進化, IV. 生理と行動, V. 細胞生物学と細胞工学 に大別されており, 第 I 部は 1. メダカ—現代生物学への貢献—(山上健次郎・嶋 昭紘), 第 II 部は 2. 生殖細胞の分化(濱口 哲), 3. 卵母細胞の成長(浜崎辰雄・井内一郎・山上健次郎), 4. 卵細胞の成熟(長浜嘉孝・酒井則良・深田幸子), 5. 受精(岩松鷹司), 6. 発生初期の形態形成(影山哲男), 7. 孵化(安増茂樹・井内一郎・山上健次郎), 第 III 部は 8. 系統と突然変異体(富田英夫), 9. 近交系とその特性(山口泰子), 10. 遺伝的にみたメダカの種と種内変異(酒泉 謙), 11. 核型と進化(宇和 紘), 第 IV 部は 12. 色素細胞と体色変化(藤井良三), 13. 視覚と行動(青木 清), 第 V 部は 14. 個体・組織に対する放射線影響(江藤久美), 15. 培養細胞を用いた DNA 修復研究(三谷啓志・小村潤一郎・嶋 昭紘), 16. メダカ生殖細胞突然変異(島田敦子・嶋 昭紘), 17. メダカにおける腫瘍発生(正仁親王・石川隆俊), 18. 人為雌性発生とその利用(成瀬清・嶋 昭紘), 19. メダカへの遺伝子の導入(井上広滋・尾里健二郎)からなっている。

本書は山本時男博士(1975)の“Medaka (killifish)—biology and strains,”江上信雄博士(1989)の「メダカに学ぶ生物学」に次ぐ, メダカに関する, 生物学の様々な分野における, 最近の成果にもとづく, まとまった出版

物である。上記の 19 篇の表題からも明らかなように, 近年, はやりの研究分野を扱ったものが多い。

比較解剖や形態形質にもとづく分類・類縁関係, 行動, 生態などの研究分野の章が欠けているのは, 本書のタイトルからすれば, 片手落ちのように思われるが, 本書はメダカの教科書を意図したわけではないのであろうから, 仕方がないのかも知れない。

内容の多様性, 限られたページ数, 多数の著者からなる本にもかかわらず, この種の論文集としては全体的に良くまとまっている。第 1 章の説明にもあるように, 本書は大学院学生, 研究者を主な対象として編集されており, 専門外の読者にとっては, 専門的過ぎるくらいはあるが, それでも, 大学学部生にも理解出来るようにとの努力の跡がうかがえる。

メダカの本といってもメダカのことだけ書かれているわけではない, 本書は, 細胞レベル, 分子生物学的レベルの研究に直接関与したことのない研究者にとって, 過去 20 年ほどにおける魚類の発生学, 生理学, 遺伝学における目覚ましい進歩をかいまみる良い機会となろう。第 2 章は 1988 年度日本魚類学会シンポジウム「硬骨魚類の雌雄性」において「生殖巣の形成と性分化」を講演した濱口 哲博士が執筆している。シンポジウムの講演要旨(魚類学雑誌, 35(4): 503 (1989))の詳細は本書を読めば十分に理解出来るよう。

魚類の性や育種に関心のある方はもちろんであるが, 本書はとくに専門外の方にお薦めしたい一冊である。

(新井良一 Ryoichi Arai)

会員通信・News and comments

第 7 回魚類分類談話会

On the 7th Seminar for Systematic Ichthyology  
in Maizuru, October 26–28, 1990

京都大学農学部附属水産実験所(京都府舞鶴市)において開催された第 7 回魚類分類談話会について簡単に経過を報告する。

10 月 26 日(金): 早い人は午前中から, 多くの参加者は午後から三々五々集まって, 歓談しながら夕食を摂った後, 持ち寄ったスライドを映写するスライドナイトを楽しんだ。

10 月 27 日(土): 朝食後, 水産生物標本館所蔵の魚類

標本の見学を行った。午後 1 時から, 約 30 名の参加者を得て下記の話題提供が行われ, 活発な論議があった。

話題提供 (13:00–18:30)

1. 個体発生から異体類系統発生を考える  
木下 泉(京大水実)
2. 異体類の左右不相称形質と体色  
青海忠久(京大水実)
3. 体型と側線型から見たサバ型魚類の適応進化  
中村 泉(京大水実)
4. 鳥羽水族館に持ち込まれた稀サメ 2 種  
塚田 修・山本 清・鈴木 清(鳥羽水族館)
5. ドジョウカマツカ属 *Gobiobotia* の系統的 position

細谷和海 (養殖研)

6. ギンザメの交接器について

舟尾 隆 (東海大海洋博)

7. 愛知県の底曳網漁業とその魚類

富山 実 (愛知水試)

8. 水族館紹介

海遊館, 宮津エネルギー研究所水族館,  
鳥羽水族館他

話題提供終了後、午後7時頃から懇親会が行われ、久しぶりに顔を合わせた魚屋達の魚談議や情報交換に、秋の夜長が充分効果的に利用された。“魚類分類談話会”の名称変更の議は、内容ともかくより、水産生物標本館(大部分は魚類標本)完成記念の意でそのまま残すべきとの意見が多く、来年以降もこの名称で行くこととなった。

10月28日(日): 午前9時から、ほとんど全ての参加者が京都府漁連西舞鶴魚市場へ車を連ねて見学に行った。それから宮津エネルギー研究所水族館へ行くもの、帰途に着くもの、再び水産生物標本館へ帰って標本調査をするものなど、様々であった。

(中村 泉 Izumi Nakamura・木下 泉 Izumi Kinoshita)

**Dr. M.-L. Bauchot フランス国立自然史博物館を去る  
Retirement of Dr. Marie-Louise Bauchot**

最近 Dr. M.-L. Bauchot から届いた手紙が、40年にわたるフランス国立自然史博物館魚類部での研究生活に別れをつける(1991年1月1日付)旨を伝えている(下記掲載)。そして日本の魚類学者達にもこのことを伝えて欲しいとあった。1991年1月1日以降は、以前に退職さ

れたがまだ博物館に研究室を保持しておられる Dr. Jacques Daget の部屋の一部を譲っていただき、時々来館して研究を継続するつもりとのことである。

なお夫君の Prof. Roland Bauchot は道を隔てて隣接するパリ第7大学比較解剖学教室でさらに研究教育を続けられる予定である。また彼女と協力して、FAOの魚類や漁業に関する諸会議や Congress of European Ichthyologists で活躍された FAO Senior Fishery Resources Officer の Dr. Walter Fischer も、奇しくも同時期に FAO を定年退職されることになっている。

(中村 泉 Izumi Nakamura)

Dear Colleagues,

After working at the Muséum national d'Histoire naturelle for 40 years, I have decided to take my retirement as of 1 January 1991.

To all my colleagues I would like to express my deepest thanks for their friendship and assistance in helping me study and utilize our collection for its best usefulness over my career.

In the future, for information about our collection, please contact one of the following people.

- J. C. Hureau    Sous-Directeur
  - G. Duhamel    Sous-Directeur
  - G. Dingerkus    Maître de Conférences
  - M. Desoutter    Assistante
  - B. Séret        Chercheur ORSTOM (Chondrichthyes)
- (Marie-Louise Bauchot)

会 記・Proceedings

**1990年度秋季日本魚類学会シンポジウム  
魚類の核型分化と種分化**

日 時: 1990年11月1日(木), 10:30-17:00

場 所: 近畿大学農学部教室棟1階 (102教室)

コンピーナー: 上野輝彌(国立科博)・上野紘一(近大農)

開会の挨拶                    落合 明 (日本魚類学会会長)

企画の趣旨説明                上野紘一 (近大農)

講 演

座長 新井良一 (国立科博)

1. 板鰓類における核型と DNA 量の特異性

朝日田 卓・井田 齊 (北里大)

2. 海産硬骨魚類の種分化に関する細胞遺伝学的解析

室伏 誠 (日大短期大)

座長 井田 齊 (北里大)

3. 核学的研究に基づくサケ・マス類の類縁

上田高嘉 (宇都宮大教育)

4. コイ目魚類における核型の分化パターン—倍数性を中心として—

多紀保彦 (東水大)

座長 多紀保彦 (東水大)

5. スジシマドジョウ種群における核型分化

齊藤憲治 (京大農)

6. 核型分析による類縁関係推定の問題点

新井良一 (国立科博)

総合討論

座長 上野輝彌 (国立科博)・上野紘一 (近大農)

閉会の挨拶                    浅野博利 (近大農)